

ふく チャレ

誰でも楽しく働ける 次世代農業を構築したい



キュウリ栽培の省力実験を行っている試験農場。従来と変わらない収量を確保し、農作業の労力を減らすことが目標です。

スマートアグリふくしま
はしもと かつよし
橋本 克美さん



省力化のため、無人で農薬散布
できる機械も導入しました。



つるおろし栽培は、従来に比べて
経験や勘に頼らず栽培できます。

キ

ユウリの一大産地として知られる須賀川市。しかし、

近年は栽培面積の減少、生産者の高齢化などにより、生産量は年々減り続けています。そんな現状を打破しようと仲間たちと「スマートアグリふくしま」を立ち上げたのが、橋本克美さんです。

福島タネセンターの社長でもある橋本さんは、農業とともに地域経済が衰退していくことに胸を痛めてきました。栽培技術など、これまでのノウハウを生かし取り組んでいるのが、ロボット技術や情報通信技術を活用した、次世代型スマート農業。

ベネフィックがソフトウェアを、エムケー技研が機械製作を担当し、ロボット開発を進めています。また、初心者でも作業しやす



ベネフィックの佐藤洋介さんと、ソフトウェアで二酸化炭素濃度を制御しキュウリの成長を促します。

い「つるおろし栽培」を採用。安定した収量を確保するため、日々データをとり続けています。「時代に合った楽しめる農業を構築し、就農者を増やしていきたい」。汗を浮かべ実験に励む橋本さんが描くのは、活気を取り戻す地域農業の未来です。

【問い合わせ先】福島タネセンター
☎ 0248(72)3145